

【ジョブコーチによる障害者の職場適応支援】 事例①

対象事業所	介護老人保健施設 Z	
支援対象者	Aさん 20代男性 療育手帳A判定	
担当業務	リネン類の補充・館内共用部分等の清掃	
支援導入の経緯	特別支援学校在学中に数回の職場実習を経て就職。働き始めて半年経過した時点で、指示通りに作業していなかったり報告する内容が違っていたりと課題が出てきたケース。	
支援導入時の状況 課題点など	【支援対象者】 ・作業指示に従わない動きをしていたり、作業報告を求めると行っていない作業も「行いました」と報告することが顕著に見られるようになった。 ・指導担当者の姿を見ると回避する（その場から逃げてしまう）行動が見られるようになった。	【対象事業所】 ・支援対象者の作業指示や確認をする従業員が少なく、いろいろな方が指示を出したり注意をしている。 ・複数の従業員から上がった意見を、指導担当者が代表して注意している。
課題点の原因として 考えられるもの	【支援対象者】 ①②言われたことに対して「はい、分かりました」「終わりました」と返答するが理解していないため、全く違う作業を行っていた。 ③指摘や注意を受けると、その内容を理解出来ず「怒られた！」という感情だけになってしまう（そのために指導担当者から逃げるような行動に出てしまう）。	【対象事業所】 ①支援対象者が返事が出来る、職場実習でも出来ていた…ということで、細かい作業手順などの説明をしていなかった。 ②③「これはやったの？」「さっき言ったこと終わった？」と聞くことが多く、出来ていたことについては特に対応していなかった。
支援の実施	【支援対象者支援】 ①作業スケジュール通りの作業を行うよう確認し、出来ていなければ繰り返し助言した。 ②業務日報へのチェック・記入を作業報告とし、記入忘れがないように繰り返し助言した。 ③注意や指摘されたことを一緒に振り返り、理解出来るよう話し合いを行った。	【対象事業所支援】 ①作業内容及びスケジュールの固定化について助言し再構築する。 ②報告の代わりとなる業務日報を提案・作成し導入。必ず確認し評価する。 ③支援対象者がマナー・ルールを遂行していたり作業が出来ていた際に「出来てるよ」「O K」など声を掛け行動の定着を図る。
現在	・支援対象者が作業スケジュール通りに遂行出来ており、業務日誌の記入忘れもほとんど見られない。 ・複数の従業員が支援対象者を気に掛けることで支援対象者も安心して作業に取り組んでいる。関係性も良好である。 ・時折業務日誌の記入忘れがあったり指示のない動きをしてしまうため、継続的な確認は必要。	